

第18回数珠つなぎイベントビュー

「能勢妙見山ブナ守の会」

猪名川流域で活躍する団体をリレー形式で紹介しています。今回は能勢妙見山ブナ守の会を今西レンジャー協力員が訪問し、会員の皆さんにお話を伺いました。(1月21日訪問)

■発足の経緯を教えてください。

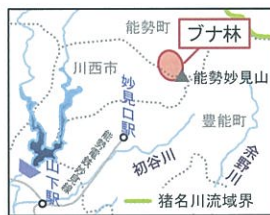
能勢妙見山のブナ林は、大昔から聖地として人々の信仰心により大切に守られてきたもので、樹齢数百年の大木が群生する原生林が残っています。加えて、標高600m級の自生地のため南限であることから、大阪府と兵庫県川西市の天然記念物に指定されています。しかし近年、温暖化の影響やシカ害により若い木が育たず、ブナ林が衰退しつつあります。

この現状を問題視していた兵庫県立大学名誉教授の服部保先生と能勢妙見山副住職の植田観肇さんが平成26年にブナ林の視察を行ったところ、ちょうど数年に一度の成り年で、一面にブナが芽生えていました。この苗がブナ再生の糸口になるのでは、との思いから、その年の7月、お寺の関係者の有志が中心となって「能勢妙見山ブナ守の会」が発足し、ブナの植樹等の活動を始めました。

■どんな活動をしていますか？

特別保護区域約6haを中心に、種から発芽させた苗の育成、防鹿柵の設置、柵内への植樹、下草刈等を行っています。地面が適度に明るく、かつ、土壌がほどよく湿潤な場所でないブナが育たないので、スギを伐採して確保した場所や、倒木によつて開けた場所に植樹をしています。防鹿柵の外ではシカが食べない植物(シロタモ、アセビ、シキミ等)が増えているため、間伐等の維持管理を行います。これらの作業は月1回行っており、メンバーは入れ替わりで毎回10名程度が集まります。

シロタモの間伐材などを木工に活用するクラフト部の活動も活発です。最近では趣味として楽しみたいという若い人の参加が増えてきました。また、こうしてクラフトに参加した人が少しずつブナ林の直面する問題を知り、保護活動にも参加するようになってきています。



ブナの葉



活動前の集合写真。この日は8名が参加。

■啓発活動やイベントにも力を入れているそうですね。

地球温暖化が少しでも進行すれば絶滅の危機に瀕する妙見山のブナ林こそ、地球温暖化の啓発に最適と考え、シンポジウム等を積極的に開催参加しています。東京など遠方から啓発活動の希望をいただくこともあり、今後は範囲を広げていきたいと思っています。

ブナ林内では、撮影会や子供の自然観察会のほか、朗読会やコンサートなど、ブナ林を活かしたアート系のイベントも開催しており、家族連れなど多くの方に来ていただいています。

Webサイトもぜひご覧ください。
【能勢妙見山ブナ守の会】

<https://bunamori.org/>

今西レンジャー協力員の感想

地味で堅実な保護活動から始まったブナ守の会ですが、今ではクラフト活動、ブナ林ツアー、シンポジウム、講演会等、若い人たちが巻き込みながら様々な活動されています。更には、会に集まった人々の繋がりが多様なイベントを開催するなど、広い世代にわたって生き生きと活動されている様子が伺えました。このような森林保全への関心を広げていく活動が、水源の森を育み、豊かな猪名川に繋がっていくのですね。

第8弾 猪名川のい〜な！ 入賞作品の紹介

猪名川河川レンジャー賞 10作品

猪名川河川事務所長賞 2作品



『絆』 西村 浩様



『おつかれ！おかえり！』 山科 博様



『大路次川の夏』 マサル・マツハラ 様



『緑の猪名川と利倉橋』 三島 礼様



『猪名川の清流』 塚原 由雄様



『エドヒガン桜の咲く頃』 宮原 昇様



『Get〜！いなかわ水族館』 明星 茜様



『やさしい光』 谷川 生馬様



『猪名川でお花見楽しいな！』 則久 正志様



『絶滅危惧種返り咲き』 西 誠生様

※全応募作品を掲載した図録は河川レンジャーのウェブサイトに掲載しています。
<http://www.iranger.jp/report/vol83.html>

猪名川河川レンジャー

Webサイト <http://www.iranger.jp/>
メールアドレス info@iranger.jp

<https://www.facebook.com/inagawaRanger>



Webサイト



facebook



猪名川河川事務所 工務課
池田市上池田2丁目2番39号
TEL:072-751-1111(代表)

新たな
河川レンジャーも
募集中です！

猪名川河川レンジャーに関するお問い合わせは、Web サイトまたはメールアドレスをご利用いただくか、猪名川河川事務所 工務課までご連絡下さい。